

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	平成 27 年度
氏名	後藤 菜摘	指導教員 (主査)	杉本 希映

論文題目	関係性攻撃における発達段階による差異の検討 —社会的スキルと学校ストレッサーに注目して—
------	---

本文概要	
<p>目的 いじめには、仲間はずれや無視するなどの関係性攻撃が含まれる。親しい仲間間で起こる関係性攻撃は、対人関係の発達に伴いその様相が変化することが予測されるが、これまで発達の視点を入れた研究は行われていない。したがって、本研究では、関係性攻撃と関連する要因として、社会的スキルと学校ストレッサーを取り上げ、発達段階による差異を検討することで、関係性攻撃の実態を把握し、効果的な介入を行うための知見を獲得することを目的とする。</p> <p>方法 <u>調査手続き</u> : A 県の公立小学校 2 校, 公立中学校 1 校に在籍する, 小学 4 年生 72 名(男子 35 名, 女子 37 名), 小学 6 年生 86 名(男子 43 名, 女子 42 名, 性別不明 1 名), 中学 2 年生 261 名(男子 139 名, 女子 113 名, 性別不明 9 名)を対象に, 倫理審査委員会の承認を得た後, 無記名式質問紙調査を実施した。 <u>質問紙の構成</u> : ①基本属性 : 年齢, 性別, 学年 ②小学生用 P-R 攻撃性尺度(坂井・山崎,2004)のうち関係性攻撃の項目だけを全て逆転させて使用。 ③中学生用コミュニケーション基礎スキル尺度(東海林ら, 2012)④小学生用学校ストレッサー尺度(嶋田, 1998)</p> <p>結果 1) 学校ストレッサーと社会的スキルの下位尺度が, 関係性攻撃に影響するというモデルを作成し, 多母集団同時分析のパス解析を行った。その結果, 小学 4 年生は「叱責」, 中学 2 年生は, 「意思伝達スキル」, 「自己他者モニタリング」から「関係性攻撃」への標準化係数が有意であった。小学 6 年生については, 「関係性攻撃」への有意なパスが見られなかった。</p> <p>2) 学校ストレッサーと社会的スキルを要因, 関係性攻撃を特性値とした 2 要因分散分析を行った。小学 4 年生においては, 4 つの交互作用が見られ, 友だちとの関係を含む学校ストレッサーが低い場合, 意図的隠匿スキルが低いと関係性攻撃は高くなるが, 友だちとの関係を含む学校ストレッサーが高い場合は, 意図的隠匿スキルが高い方が関係性攻撃も高くなることが示された。また, 叱責ストレッサーが高い場合は, 他者理解スキルを含む社会的スキルが低いことが関係性攻撃につながりやすいこと, 他者理解スキルを含む社会的スキルが高いと, 叱責ストレッサーが高くても関係性攻撃にはつながりにくいことが明らかとなった。小学 6 年生は, 交互作用が有意ではなかった。中学 2 年生は, 3 つの交互作用が見られ, 意思伝達スキルの交互作用が有意であり, 先生との関係・友だちとの関係を含む学校ストレッサーが低い児童生徒においては, 意思伝達スキルが低いと関係性攻撃につながりやすいこと, また意思伝達スキルが高い場合にも, 学校ストレッサーが高いと関係性攻撃をしてしまうことが明らかとなった。</p> <p>考察 小学 4 年生においては, 叱責ストレッサーが関係性攻撃の抑制に関連しており, このことは叱責により規範意識が高まるためと考えられる。したがって, 規範意識を高めると同時に, 社会的スキル全体, 特に他者理解スキルを高める介入をしていく必要があることが示唆された。</p> <p>小学 6 年生においては, 関係性攻撃が高まる時期であるが, 本研究では社会的スキルと学校ストレッサーとの関連は見られなかったため, より複雑な要因が関連している可能性がある。</p> <p>中学 2 年生においては, 意思伝達スキルを高めるだけではなく, 学校ストレッサー全体を低下させることも考慮する必要がある。また, 中学 2 年生において関係性攻撃を抑制するためには, 社会的スキル・トレーニングによってスキル全体を高めることのみならず, 先生との関係にストレッサーを抱えていないかに留意していく必要があるといえる。</p>	